

「ナラ枯れ」後の森林はどうなっているか



ミズナラやコナラが集団で枯れる「ナラ枯れ」の被害が依然として拡大しています。「ナラ枯れ」の被害を受けた森林はその後どのようなになっているのでしょうか。

「ナラ枯れ」後の森林は どうなっているか

カシノナガキクイムシが伝播する *Raffaelea querucivora* という菌（カビ）によってナラなどが枯れる「ナラ枯れ」が広がっています。被害を受けたナラ林はその後はどのようなになっているのでしょうか。実態把握のため、滋賀県および京都府の 3 箇所で現地調査をおこないました。通常は、木が枯れた跡の「林冠ギャップ」の下で新しい木が育つことにより、森林の世代交代が進むと考えられています。ナラ枯れの後でも、残った木が成長していくと考えられました。しかし、チマキザサが地面に密生している森林では、枯れた後に新しい樹木はほとんど伸びてきていないようでした。このほか、常緑の低木が繁茂していたり、シカが生息する場所でも、若い木の定着や成長が妨げられるおそれがあります。ナラ枯れ被害後の森林は、その後に新しい樹木が順調に生育しているかどうかを注意して見守る必要があるでしょう。



ナラ枯れによってできた
「林冠ギャップ」



ササが密生するナラ枯れ跡の森林